

校長室から

(H29年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 48

平成30年2月22日(木)発行

寒さの中でも温かい心を大事にしよう

みなさんは『ウサギとカメ』のお話を知っていますよね。ウサギがカメをバカにして寝てしまい、失敗するお話です。人をバカにしたりしてはいけない、友だちを思う心が大切だということを教えてくれる物語です。

さて、『ウサギとカメ』には続きがあるのを知っていますか。いくつか紹介します。

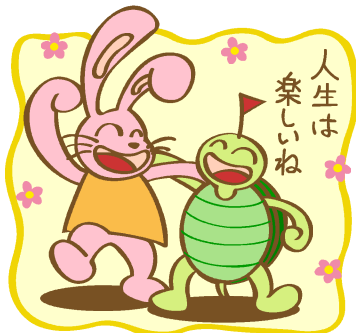
先ず一つ目のお話です。競争を終えたウサギが自分の村に帰ると、「カメに負けるなんて恥さらしだ」とののしられて、村を追い出されてしまいます。しかしあるとき、ウサギはオオカミが村を狙っているということを知り、オオカミをだまして崖から落とし、村を危機から救うのです。ウサギは英雄として迎え入れられました。

カメが主役になったお話もあります。カメは、やれば何でもできるということを勘違いし、絶対に空を飛べるんだと自分に言い聞かせて、ワシに大空へと連れて行ってもらいました。そして、空高いところから飛び降りたのです。カメがその後どうなったかは、想像できるでしょう。

ウサギがカメに再挑戦したというお話もあります。ウサギは今度は油断していないので圧倒的な速さで勝利しました。でもカメはこう言いました。「勝負には負けただけ、前回よりも早くゴールできたんだ。自分に勝ったことがうれしいんだ」このお話は、楽しいお話になるように想像しながら、ある人が考えたものです。読書を楽しんだら、お話の続きを想像し、考えたことを書いてみると、楽しさが広がります。

想像することは、相手の気持ちを考える力にもつながります。互いの良さを知り、認め合うことを学びの場で大切に意識していくことで、「自分がこういうことをしたら、相手はどう思うだろうか?」とか、「こうすれば友だちも自分も気持ちよく遊ぶことができるだろうな」と考える心のゆとりが生まれてきます。

このような温かい心があると、不愉快な思いをするお友だちは一人もいなくなりますね。



大人とは何か 教育ジャーナリスト高杉晋介さんの文章より

文化人類学者である我妻 洋(元筑波大学教授)氏は、「人間というものは自由にみだされた時、外罰的・他罰的になる」と指摘している。ちょっとした不自由とか不都合が起これば、自分を反省することなく、その原因をみな他に転嫁する。いまの大人の世界でもよく見られる現象である。

「うちの子どもが非行に走ったのは、〇〇がなってないからだ…」、さらに「社会が悪い…」「政治が悪い…」等々である。そこには自己というものが全く存在していない。逆に開発途上国などの人々は内罰的・自己罰的になるという。「失敗したのは自分の努力が足りなかったからだ。次からは気をつけよう」と。ここには「目的・目標」がある。であるから、またそれに向かってがんばるのである。

現在の我が国を見てみよう。「目的・目標」がないように思えてしかたがないのである。そのような中で、親や先生がいくら「勉強しろ!」と子どもの尻をたたいても有効な教育は成立しないのでは…と筆者は思う。

「大人」の法的年齢が18歳になったが、そもそも「大人とは何か」ということである。この問いに答えることはなかなか困難なことである。しかし、敢えて答えるとするならば、

- 1) 自分のおかれた現実的状况を把握できる。
 - 2) 自分をある程度、抑制できる。
 - 3) 自分自身の役割や、自分が何者であるかということを認知できる。
 - 4) 物事の判断に偏りがなく、バランスのとれた行動ができる。
 - 5) 自分を中心に考えず、他人の境遇や行動に対してごく当たり前の共感性をもてる。
- …ということになる。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

ルール27 バスに乗ったら、おとなしく座っていよう

座席に座ったら、前を向いていよう。後ろの人と話したり、窓から顔を出したり、席を立ったりしてはいけない。

●バスの中ではしゃいで大さわぎすると、運転している人の気が散って、ひじょうに危険だ。運転している人の気を散らすようなことをしてはいけない。降りるときはかならず、運転してくれた人に「ありがとうございました」とお礼を言おう。